

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2016-141237

(P2016-141237A)

(43) 公開日 平成28年8月8日(2016.8.8)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 2 B 5/00 (2006.01)	B 6 2 B 5/00	F 3 D 0 5 0
A 6 1 H 3/04 (2006.01)	B 6 2 B 5/00	D
B 6 2 B 3/00 (2006.01)	A 6 1 H 3/04	
	B 6 2 B 3/00	F
	B 6 2 B 5/00	Z

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2015-18169 (P2015-18169)
 (22) 出願日 平成27年2月2日 (2015.2.2)

特許法第30条第2項適用申請有り (1) (商品を提案した日) 2015年1月8日(提案した相手先名) イオンリテール株式会社 (2) (商品を提案した日) 2015年1月16日(提案した相手先名) 菊屋株式会社 (3) (商品を提案した日) 2015年1月16日(提案した相手先名) 株式会社士谷龍治郎商店 (4) (商品を提案した日) 2015年1月30日(提案した相手先名) 株式会社イトーヨーカ堂

(71) 出願人 598087841
 株式会社幸和製作所
 大阪府堺市堺区海山町3丁159番地1
 (74) 代理人 100148275
 弁理士 山内 聡
 (74) 代理人 100147706
 弁理士 多田 裕司
 (74) 代理人 100142745
 弁理士 伊藤 世子
 (74) 代理人 100136319
 弁理士 北原 宏修
 (72) 発明者 城戸 遼
 大阪府堺市堺区海山町3丁150番地1
 株式会社幸和製作所内

最終頁に続く

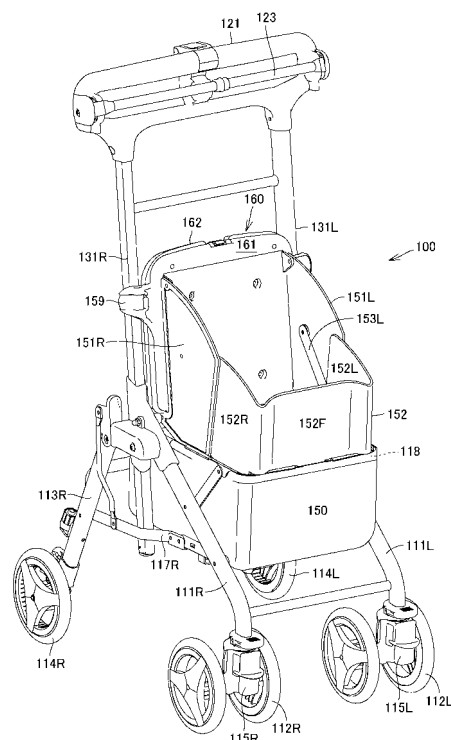
(54) 【発明の名称】 手押し車およびバッグ

(57) 【要約】

【課題】従来のバッグまたは手押し車よりも、収納できる荷物あるいは運搬できる荷物の量が多いバッグまたは手押し車を提供する。

【解決手段】複数の車輪112L, 112R, 114L, 114Rと、少なくとも複数の車輪を支持するための複数のフレーム111L, 111R, 113L, 113Rと、複数のフレームのいずれかに支持されるバッグ本体150と、前記バッグの上部を開閉するための蓋部160と、を備える手押し車100が提供される。前記蓋部160が開けられると、前記バッグの側面の少なくとも一部からさらに上方に側面151L, 151Rが形成される。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

複数の車輪と、
少なくとも前記複数の車輪を支持するための複数のフレームと、
前記複数のフレームのいずれかに支持されるバッグと、
前記バッグの上部を開閉するための蓋部と、を備え、
前記蓋部が開けられると、前記バッグの側面の少なくとも一部からさらに上方に側面が形成される、手押し車。

【請求項 2】

前記蓋部が開けられると、前記バッグの前面の少なくとも一部からさらに上方に前面が形成される、請求項 1 に記載の手押し車。 10

【請求項 3】

前記前面と前記側面とがリンク機構を介して連動する、請求項 2 に記載の手押し車。

【請求項 4】

前記蓋部が座面を含む、請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の手押し車。

【請求項 5】

前記蓋部を持ち上げた状態で保持するための保持部材を備える、請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の手押し車。

【請求項 6】

バッグ本体と、 20
前記バッグ本体の上部を開閉するための蓋部と、を備え、
前記蓋部が開けられると、前記バッグ本体の側面の少なくとも一部からさらに上方に側面が形成される、バッグ。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、バッグまたは手押し車のバッグの技術に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来から、高齢者の歩行を補助するための手押し車が知られている。そのような手押し車の中には、買い物した荷物などを収納したり運んだりすることが可能なものがある。たとえば、特開 2009-83778 号公報（特許文献 1）には、手押し車が開示されている。特開 2009-83778 号公報（特許文献 1）によると、下端部に車輪を備え、上端部を把持して手押し可能な主フレーム部と、下端部に車輪を備え、主フレームを支持する副フレーム部と、上方開口部を蓋体によって開閉可能な収納部と、収納部を主フレームに沿って昇降可能に支持するガイド部と、収納部を前記ガイド部に沿って昇降させ、上方側の荷物出入れ位置と、下方側の着座位置とにそれぞれ位置決めする位置決め機構とを備える。 30

【先行技術文献】**【特許文献】**

40

【0003】

【特許文献 1】特開 2009-83778 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

しかしながら、従来のバッグまたは手押し車は、収納したり、運んだりできる荷物の量が少なかった。

【0005】

本発明は、かかる問題を解決するためになされたものであり、その目的は、従来のバッグまたは手押し車よりも、収納できる荷物あるいは運搬できる荷物の量が多いバッグまた 50

は手押し車を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

この発明のある局面に従うと、複数の車輪と、少なくとも前記複数の車輪を支持するための複数のフレームと、前記複数のフレームのいずれかに支持されるバッグと、前記バッグの上部を開閉するための蓋部と、を備える手押し車が提供される。そして、前記蓋部が開けられると、前記バッグの側面の少なくとも一部からさらに上方に側面が形成される。

【0007】

好ましくは、前記蓋部が開けられると、前記バッグの前面の少なくとも一部からさらに上方に前面が形成される。

【0008】

好ましくは、前記前面と前記側面とがリンク機構を介して連動する。

【0009】

好ましくは、前記蓋部が座面を含む。

【0010】

好ましくは、前記手押し車は、前記蓋部を持ち上げた状態で保持するための保持部材を備える。

【0011】

この発明の別の態様に従うと、バッグ本体と、前記バッグ本体の上部を開閉するための蓋部と、を備えるバッグが提供される。前記蓋部が開けられると、前記バッグ本体の側面の少なくとも一部からさらに上方に側面が形成される。

【発明の効果】

【0012】

以上のように、この発明によれば、従来のバッグまたは手押し車よりも、収納できる荷物あるいは運搬できる荷物の量が多いバッグまたは手押し車が提供される。

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図1】第1の実施の形態にかかる手押し車100全体の通常状態を示す前方斜視図である。

【図2】第1の実施の形態にかかる手押し車100全体の通常状態を示す側面図である。

【図3】第1の実施の形態にかかる手押し車100全体の容量増大状態を示す前方斜視図である。

【図4】第1の実施の形態にかかる手押し車100全体の容量増大状態を示す側面図である。

【図5】第1の実施の形態にかかる側面プレート151Rを示す側面図である。

【図6】第1の実施の形態にかかる前面プレート152を示す後方斜視図である。

【図7】第1の実施の形態にかかる蓋部160が閉じられた状態のリンク機構155を示す側面図である。

【図8】第1の実施の形態にかかる蓋部160が開放されていく途中の状態のリンク機構155を示す側面図である。

【図9】第1の実施の形態にかかる蓋部160が開放された状態のリンク機構155を示す側面図である。

【図10】第1の実施の形態における蓋部160を縦フレーム131L, 131Rに引っ掛ける途中の状態を示す平面図である。

【図11】第1の実施の形態における蓋部160を縦フレーム131L, 131Rに引っ掛けた状態を示す平面図である。

【図12】第2の実施の形態にかかる蓋部160が開放された状態のリンク機構255を示す側面図である。

【発明を実施するための形態】

【0014】

10

20

30

40

50

以下、図面を参照しつつ、本発明の実施の形態について説明する。以下の説明では、同一の部品には同一の符号を付してある。それらの名称および機能も同じである。したがって、それらについての詳細な説明は繰り返さない。

【第１の実施の形態】

<全体構成>

【００１５】

まずは、図１から図４を参照して、本実施の形態にかかる手押し車１００の全体構成について説明する。なお、図１は、第１の実施の形態にかかる手押し車１００全体の通常状態を示す前方斜視図である。図２は、第１の実施の形態にかかる手押し車１００全体の通常状態を示す側面図である。図３は、第１の実施の形態にかかる手押し車１００全体の容量増大状態を示す前方斜視図である。図４は、第１の実施の形態にかかる手押し車１００全体の容量増大状態を示す側面図である。

10

【００１６】

本実施の形態にかかる手押し車１００は、主に、一对の前輪フレーム１１１Ｌ，１１１Ｒと、一对の前輪１１２Ｌ，１１２Ｒと、一对の後輪フレーム１１３Ｌ，１１３Ｒと、一对の後輪１１４Ｌ，１１４Ｒと、一对の連結部材１１６Ｌ，１１６Ｒと、一对のリンク部材１１７Ｌ，１１７Ｒと、バッグ取付フレーム１１８と、縦フレーム１３１Ｌ，１３１Ｒと、ハンドル１２１と、バッグ本体１５０と、蓋部１６０と、を備えている。なお、上記のフレーム群をまとめて、複数のフレームともいう。

【００１７】

20

前輪フレーム１１１Ｌ，１１１Ｒのそれぞれの上端部は連結部材１１６Ｌ，１１６Ｒに連結されている。後輪フレーム１１３Ｌ，１１３Ｒのそれぞれも連結部材１１６Ｌ，１１６Ｒに連結されている。

【００１８】

前輪フレーム１１１Ｌ，１１１Ｒのそれぞれの下端には前輪１１２Ｌ，１１２Ｒが回転可能に取り付けられている。また、これら前輪１１２Ｌ，１１２Ｒは、それぞれ前輪フレーム１１１Ｌ，１１１Ｒに対して左右方向に回動（首振り）可能に取り付けられている。これによって、ユーザは、行きたい方向に手押し車１００を進めることができるようになる。本実施の形態の手押し車１００に用いられている前輪１１２Ｌ，１１２Ｒのそれぞれは、回動規制スライド１１５Ｌ，１１５Ｒを有している。ユーザは、この回動規制スライド１１５Ｌ，１１５Ｒそれぞれの上下方向の位置を変えることにより、前輪フレーム１１１Ｌ，１１１Ｒに対する前輪１１２Ｌ，１１２Ｒの左右方向への回動を許可したり規制したりすることができる。

30

【００１９】

後輪フレーム１１３Ｌ，１１３Ｒのそれぞれの下端には後輪１１４Ｌ，１１４Ｒが取り付けられている。また、後輪フレーム１１３Ｌ，１１３Ｒそれぞれの後輪１１４Ｌ，１１４Ｒの近傍および内側には、後述するようにブレーキバー１２３および図示しないワイヤーを介して当該後輪１１４Ｌ，１１４Ｒに制動力を付与するための車輪当接部１６４が取り付けられている。

【００２０】

40

一对の縦フレーム１３１Ｌ，１３１Ｒのそれぞれは、連結部材１１６Ｌ，１１６Ｒに挿通されている。左右の連結部材１１６Ｌ，１１６Ｒは、水平支持部材１３２によって互いに支持されている。水平支持部材１３２には、２つのスライド部材１３５がスライド可能に設けられている。ユーザは、２つのスライド部材１３５を指で挟んで近づけることにより、連結部材１１６Ｌ，１１６Ｒに対する縦フレーム１３１Ｌ，１３１Ｒの位置のロック状態を解除することができる。これによって、ユーザは、連結部材１１６Ｌ，１１６Ｒに対する縦フレーム１３１Ｌ，１３１Ｒの略垂直方向の位置を調整することができる。すなわち、ユーザは、ハンドル１２１の高さを調節することができる。

【００２１】

ハンドル１２１の左右端のそれぞれは、左右の縦フレーム１３１Ｌ，１３１Ｒの上端に

50

支持される。ハンドル 1 2 1 と縦フレーム 1 3 1 L , 1 3 1 R とは、正面視において略逆 U 字状のフレームを形成する。

【 0 0 2 2 】

ハンドル 1 2 1 の前方にはブレーキバー 1 2 3 が上下方向に回動可能に取り付けられている。ユーザが、ブレーキバー 1 2 3 を操作すると、図示しないワイヤーを介して、車輪当接部 1 6 4 が後輪 1 1 4 L , 1 1 4 R に当接する。その結果、後輪 1 1 4 L , 1 1 4 R に制動力がかけられる。

【 0 0 2 3 】

リンク部材 1 1 7 L , 1 1 7 R のそれぞれは、その一端が前輪フレーム 1 1 1 L , 1 1 1 R の上下中央部に軸着されているとともに、その他端が後輪フレーム 1 1 3 L , 1 1 3 R の上下中央部に軸着されている。

10

【 0 0 2 4 】

連結部材 1 1 6 L , 1 1 6 R は、バッグ取付フレーム 1 1 8 の後部の左右端を支持する。本実施の形態においては、バッグ取付フレーム 1 1 8 は、その前部の左右端を、前輪フレーム 1 1 1 L , 1 1 1 R に取り付けられる支持部材 1 1 9 によって支持される。

【 0 0 2 5 】

バッグ取付フレーム 1 1 8 は、平面視において略口の字状の部材である。バッグ取付フレーム 1 1 8 は、バッグ本体 1 5 0 の上端、すなわちバッグ本体 1 5 0 の開口部分を保持する。

【 0 0 2 6 】

蓋部 1 6 0 は、バッグ本体 1 5 0 の蓋 1 6 1 としての役割と座面 1 6 2 としての役割を果たす。蓋部 1 6 0 は、その後部がバッグ取付フレーム 1 1 8 の後部または連結部材 1 1 6 L , 1 1 6 R に軸着されている。ユーザは、蓋部 1 6 0 を後上方に回動させることによって、バッグ本体 1 5 0 の上部を開放することができる。逆に、ユーザは、蓋部 1 6 0 を倒すことによって、バッグ本体 1 5 0 を閉じることができる。あるいは、ユーザは、蓋部 1 6 0 を倒して座面 1 6 2 に座ることができる。

20

【 0 0 2 7 】

なお、上述したもの以外にも、たとえば、一对の前輪フレーム 1 1 1 L , 1 1 1 R 間に補強用フレームが取り付けられてもよいし、一对の後輪フレーム 1 1 3 L , 1 1 3 R 間に補強用フレームが取り付けられてもよい。

30

【 0 0 2 8 】

また、手押し車 1 0 0 は、前後方向または左右方向にコンパクトに折り畳まれる形態であってもよい。

< バッグの容量増大機構の概要 >

【 0 0 2 9 】

次に、図 1 ~ 図 4 を参照して、本実施の形態にかかる手押し車 1 0 0 のバッグの容量増大機構について説明する。

【 0 0 3 0 】

まず、図 1 および図 2 に示すように、通常状態においては、バッグ本体 1 5 0 の上部が閉じられている。すなわち、蓋部 1 6 0 が倒されている。より詳細には、蓋部 1 6 0 がバッグ取付フレーム 1 1 8 と平行になっている。この場合は、ユーザが、座面 1 6 2 に座ることができる。そしてこのときのバッグ本体 1 5 0 に収納したり載置したりできる荷物の量は、通常の手押し車の荷物の量と同じである。

40

【 0 0 3 1 】

このような状態から、図 3 および図 4 に示すように、ユーザがバッグ本体 1 5 0 を開ける。すなわち、蓋部 1 6 0 が起こされる。より詳細には、蓋部 1 6 0 がバッグ取付フレーム 1 1 8 とほぼ垂直になる。この場合、蓋部 1 6 0 が立ち上がるのに伴って、バッグ本体 1 5 0 の側面の上方にさらに側面が上昇してくる。そして、本実施の形態においては、蓋部 1 6 0 の立ち上がりに伴って、バッグ本体 1 5 0 の前面の上方にもさらに前面が上昇してくる。

50

【 0 0 3 2 】

これによって、従来よりも多くの荷物をバッグ本体 1 5 0 に載せても、当該荷物がこぼれ落ちる可能性を低減することができる。すなわち、従来よりも多くの荷物を手押し車に載せて運ぶことができる。以下、バッグの容量増大機構の詳細について説明する。

< バッグの容量増大機構の詳細 >

【 0 0 3 3 】

まず、バッグ本体 1 5 0 上方の左右の側壁の一部を構成する側面プレート 1 5 1 L , 1 5 1 R について説明する。図 5 は、本実施の形態にかかる右側の側面プレート 1 5 1 R を示す側面図である。図 5 を参照して、バッグ本体 1 5 0 が閉じられた状態に関して、側面プレート 1 5 1 R の構成を説明する。本実施の形態にかかる側面プレート 1 5 1 R は、略矩形状に形成される。側面プレート 1 5 1 R は、樹脂で形成されている。ただし、側面プレート 1 5 1 R は、アルミ、鉄、ポリエステルなど、他のある程度の強度を有するものであってもよい。

10

【 0 0 3 4 】

側面プレート 1 5 1 R は、後部の上端に後回動孔 1 5 1 a が形成されている。後回動孔 1 5 1 a は、連結部材 1 1 6 R あるいは蓋部 1 6 1 の裏面の後部にピンまたは軸などを介して取り付けられる。

【 0 0 3 5 】

側面プレート 1 5 1 R は、前部の上端に前回動孔 1 5 1 b が形成されている。前回動孔 1 5 1 b は、蓋部 1 6 1 の裏側の前部にピンまたは軸などを介して取り付けられる。ただし、側面プレート 1 5 1 R は、蓋部 1 6 0 の裏側、すなわちバッグ本体 1 5 0 側に取り付けられていればよく、2 か所で連結される形態に限らない。

20

【 0 0 3 6 】

側面プレート 1 5 1 R には、その中央部に、リンク孔 1 5 1 c が形成されている。リンク孔 1 5 1 c は、後述するリンク部材の後端部に軸支される。

【 0 0 3 7 】

次に、バッグ本体 1 5 0 上方の前壁および側壁の一部を構成する前面プレート 1 5 2 について説明する。図 6 は、本実施の形態にかかる前面プレート 1 5 2 を示す後方斜視図である。図 6 を参照して、バッグ本体 1 5 0 が閉じられた状態に関して、前面プレート 1 5 2 の構成を説明する。本実施の形態においては、前面プレート 1 5 2 は、平面視において略 U 字状に形成される。すなわち、前面プレート 1 5 2 は、前面 1 5 2 F と、左面 1 5 2 L と、右面 1 5 2 R とから構成される。前面プレート 1 5 2 は、樹脂で形成されている。ただし、前面プレート 1 5 2 は、アルミ、鉄、ポリエステルなど、他のある程度の強度を有するものであってもよい。

30

【 0 0 3 8 】

前面プレート 1 5 2 は、前面 1 5 2 F の下端部に前回動孔 1 5 2 a が形成されている。前回動孔 1 5 2 a は、バック取付フレーム 1 1 8 の前部に軸支される。

【 0 0 3 9 】

前面プレート 1 5 2 は、左面 1 5 2 L および右面 1 5 2 R の後部の上下略中央部に、リンク孔 1 5 2 c が形成されている。リンク孔 1 5 2 c は、後述するリンク部材の前端部に軸支される。これによって、前面プレート 1 5 2 は、リンク部材の動きに従って、前回動孔 1 5 2 a を軸に、上下方向に回動することができる。

40

【 0 0 4 0 】

次に、リンク機構について説明する。図 7 は、本実施の形態にかかる蓋部 1 6 0 が閉じられた状態のリンク機構 1 5 5 を示す側面図である。図 8 は、本実施の形態にかかる蓋部 1 6 0 が開放されていく途中の状態のリンク機構 1 5 5 を示す側面図である。図 9 は、本実施の形態にかかる蓋部 1 6 0 が開放された状態のリンク機構 1 5 5 を示す側面図である。

【 0 0 4 1 】

図 7 ~ 図 9 を参照して、リンク部材 1 5 3 R は、その後端が側面プレート 1 5 1 R のリ

50

ンク孔 151c に軸支され、その前端が前面プレート 152 のリンク孔 152c に軸支される。なお、ここでは手押し車 100 の右側のリンク機構 155 について説明したが、手押し車 100 の左側のプレートやリンク機構も同様の構成であるため、ここでは説明を繰り返さない。

【0042】

これによって、図 7、図 8、図 9 の順に示すように、蓋部 160 が開けられる際には、側面プレート 151L, 151R が後方に起き上がり、それに伴ってリンク部材 153R を介して前面プレート 152 が前方に起き上がる。これによって、図 3 および図 4 に示すように、バッグ本体 150 の荷物を入れるためのスペースを広げることができる。

【0043】

逆に、図 9、図 8、図 7 の順に示すように、蓋部 160 が閉じられる際には、側面プレート 151L, 151R が前方に倒れ込み、それに伴ってリンク部材 153R を介して前面プレート 152 が後方に倒れ込む。これによって、図 1 および図 2 に示すように、ユーザは、座面 162 に座ることができる。

< その他の構成 >

【0044】

本実施の形態においては、手押し車 100 は、蓋部 160 を持ち上げたままで保持するための機構も有している。ここで、図 10 は、本実施の形態における蓋部 160 を縦フレーム 131L, 131R に引っ掛ける途中の状態を示す平面図である。図 11 は、本実施の形態における蓋部 160 を縦フレーム 131L, 131R に引っ掛けた状態を示す平面図である。

【0045】

図 1 および図 2 を参照して、蓋部 160 の前部の右端には、保持部材 159 が取り付けられている。そして、図 3 および図 4 を参照して、蓋部 160 が持ち上げられた際には、蓋部 160 の保持部材 159 が縦フレーム 131L, 131R に引っかかるように構成されている。なお、保持部材 159 は、蓋部 160 の左右に取り付けられていてもよい。

【0046】

より詳細には、図 10 および図 11 に示すように、縦フレーム 131L, 131R の側面には、凹部 131X が形成されている。そして、保持部材 159 は、バネ 158 によって、その後端部 157 が縦フレーム 131L, 131R の方向に、すなわち手押し車 100 の内側方向に、付勢されている。これによって、蓋部 160 が起き上がって縦フレーム 131L, 131R に近づくと、保持部材 159 の後端部 157 が縦フレーム 131R に当接しながらバネ 158 の付勢力に抗して一旦外側に開いてから、最終的に保持部材 159 の後端部 157 が凹部 131X に引っかかるようになる。

【0047】

このように、本実施の形態においては、蓋部 160 が起き上がった状態で保持部材 159 によって縦フレーム 131L, 131R に保持されるため、荷物をバッグ本体 150 に入れる際や、荷物をバッグ本体 150 から取り出す際に、蓋部 160 が意図せずに閉まってしまう可能性を低減することができる。

[第 2 の実施の形態]

【0048】

次に、バッグ容量増大機構に関する第 2 の実施の形態について説明する。なお、以下では、本実施の形態にかかるバッグ容量増大機構について説明するものとし、手押し車 100 の他の構成については、第 1 の実施の形態のそれと同様であるため、ここでは説明を繰り返さない。

< バッグの容量増大機構の詳細 >

【0049】

まず、バッグ本体 150 上方の左右の側壁のうちの右側の側壁を構成する側面プレート 251R について説明する。図 12 は、本実施の形態にかかる蓋部 160 が開放された状態のリンク機構 255 を示す側面図である。

10

20

30

40

50

【 0 0 5 0 】

図 1 2 を参照して、本実施の形態においても、側面プレート 2 5 1 R は、略矩形状に形成される。本実施の形態においても、側面プレート 2 5 1 R は、樹脂で形成されている。ただし、側面プレート 2 5 1 R は、アルミ、鉄、ポリエステルなど、他のある程度の強度を有するものであってもよい。

【 0 0 5 1 】

側面プレート 2 5 1 R は、後部の上端に後回動孔 2 5 1 a が形成されている。後回動孔 2 5 1 a は、連結部材 1 1 6 R あるいは蓋部 1 6 1 の裏面の後部にピンまたは軸などを介して取り付けられる。

【 0 0 5 2 】

側面プレート 2 5 1 R は、前部の上端に前回動孔 2 5 1 b が形成されている。前回動孔 2 5 1 b は、図 1 2 おける蓋部 1 6 1 の上端部にピンまたは軸などを介して取り付けられる。ただし、側面プレート 2 5 1 R は、蓋部 1 6 0 の裏側、すなわちバッグ本体 1 5 0 側に取り付けられていればよく、2 か所で連結される形態に限らない。

【 0 0 5 3 】

側面プレート 2 5 1 R には、蓋部 1 6 0 の開放時における上下中央部に、C 字状のスライド孔 2 5 1 c が形成されている。スライド孔 2 5 1 c には、前面プレート 2 5 2 に固設されるスライド部材 2 5 3 R が回動可能およびスライド可能にガイドされる。

【 0 0 5 4 】

次に、バッグ本体 1 5 0 上方の前壁を構成する前面プレート 2 5 2 について説明する。本実施の形態においても、前面プレート 2 5 2 は、平面視略 U 字状に形成される。本実施の形態においても、前面プレート 2 5 2 は、樹脂で形成されている。ただし、前面プレート 2 5 2 は、アルミ、鉄、ポリエステルなど、他のある程度の強度を有するものであってもよい。

【 0 0 5 5 】

前面プレート 2 5 2 は、前面の下端部に前回動孔 2 5 2 a が形成されている。前回動孔 2 5 2 a は、バック取付フレーム 1 1 8 の前部に軸支される。

【 0 0 5 6 】

前面プレート 2 5 2 の後部には、外側、すなわち側面プレート 2 5 1 R 側にスライド部材 2 5 3 R が突設されている。

【 0 0 5 7 】

スライド部材 2 5 3 R は、側面プレート 2 5 1 R のスライド孔 2 5 1 c に挿通され、スライド孔 2 5 1 c に沿ってスライドする。なお、ここでは手押し車 1 0 0 の右側のリンク機構について説明したが、左側のプレートやリンク機構も同様の構成であるため、ここでは説明を繰り返さない。

【 0 0 5 8 】

これによって、図 7、図 8、図 9 の場合と同様に、蓋部 1 6 0 が開けられる際には、側面プレート 2 5 1 R が後方に起き上がり、それに伴ってスライド部材 2 5 3 R が図 1 2 における上方に向かってスライド孔 2 5 1 c を移動し、前面プレート 2 5 2 が前方に起き上がる。これによって、図 3 および図 4 に示すように、バッグ本体 1 5 0 に載せられる荷物の容量を増やすことができる。

【 0 0 5 9 】

逆に、図 9、図 8、図 7 の順に示すように、蓋部 1 6 0 が閉じられる際には、側面プレート 2 5 1 R が前方に倒れ込み、それに伴ってスライド部材 2 5 3 R がスライド孔 2 5 1 c を図 1 2 における下方に向かって移動し、前面プレート 2 5 2 が後方に倒れ込む。これによって、図 1 および図 2 に示すように、ユーザは、座面 2 6 2 に座ることができる。

[その他の実施の形態]

【 0 0 6 0 】

第 1 および第 2 の実施の形態では、前面プレート 1 5 2 が平面視において U 字状に形成されるものであった。そして、側面プレート 1 5 1 L , 1 5 1 R と前面プレート 1 5 2 の

10

20

30

40

50

一部とによってバッグ本体 1 5 0 の側面の上方に側面が形成され、前面プレート 1 5 2 の一部によってバッグの前面の上方に前面が形成されるものであった。

【 0 0 6 1 】

しかしながら、バッグ本体 1 5 0 の左右の側面や前面の上方に、バッグ本体 1 5 0 から上方にはみ出す荷物をこぼれ落ち難くするものであればよく、第 1 および第 2 の実施の形態の側面プレート 1 5 1 L , 1 5 1 R や前面プレート 1 5 2 とは異なる形状のプレートを利用してよい。なお、樹脂等の比較的固い部材を用いると、ネギ・ゴボウなどのバッグ本体 1 5 0 に入りきらない食料品や瓶を運ぶ場合などに、荷物が割れたり傷ついたりする可能性を低減することができる。

【 0 0 6 2 】

しかしながら、樹脂製のプレートの代わりに、バッグ本体 1 5 0 から上方に延設される、網状部材あるいは棒状部材などを利用してよい。さらには、バッグ本体 1 5 0 の側面から上方に延設される網状部材と棒状部材とそれらに支持される天然繊維および化学繊維などの布状部材を利用してよい。

【 0 0 6 3 】

また、第 1 および第 2 の実施の形態のリンク機構 1 5 5 , 2 5 5 とは異なるリンク機構を利用してよい。蓋部 1 6 0 の開閉に合わせて、バッグ本体 1 5 0 から上方にプレートなどの部材が形成されることにより、ユーザがワンタッチで容量を増大させることができる。

【 0 0 6 4 】

さらには、蓋部 1 6 0 の開閉とは別に、バッグ本体 1 5 0 から上方に向けてプレート状部材や棒状部材や布状部材などの荷物がこぼれ落ちることを防止する部材が形成される構成であってもよい。

【 0 0 6 5 】

今回開示された実施の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は、上記した説明ではなく、特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内でのすべての変更が含まれることが意図される。

【 符号の説明 】

【 0 0 6 6 】

1 0 0	手押し車
1 1 1 L , 1 1 1 R	前輪フレーム
1 1 2 L , 1 1 2 R	前輪
1 1 3 L , 1 1 3 R	後輪フレーム
1 1 4 L , 1 1 4 R	後輪
1 1 6 L , 1 1 6 R	連結部材
1 1 8	バッグ取付フレーム
1 2 1	ハンドル
1 3 1 L , 1 3 1 R	縦フレーム
1 5 0	バッグ
1 5 1 , 2 5 1	側面プレート
1 5 2 , 2 5 2	前面プレート
1 5 5 , 2 5 5	リンク機構
1 6 0	蓋部
1 6 1	蓋
1 6 2 , 2 6 2	座面

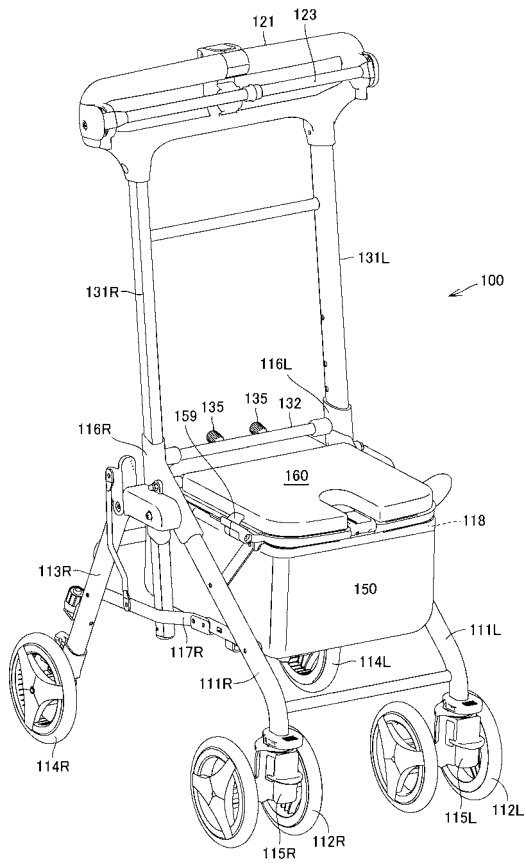
10

20

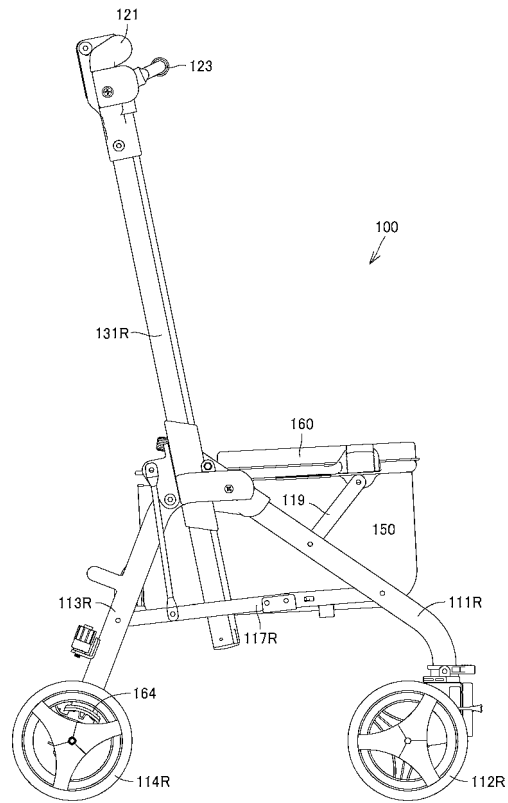
30

40

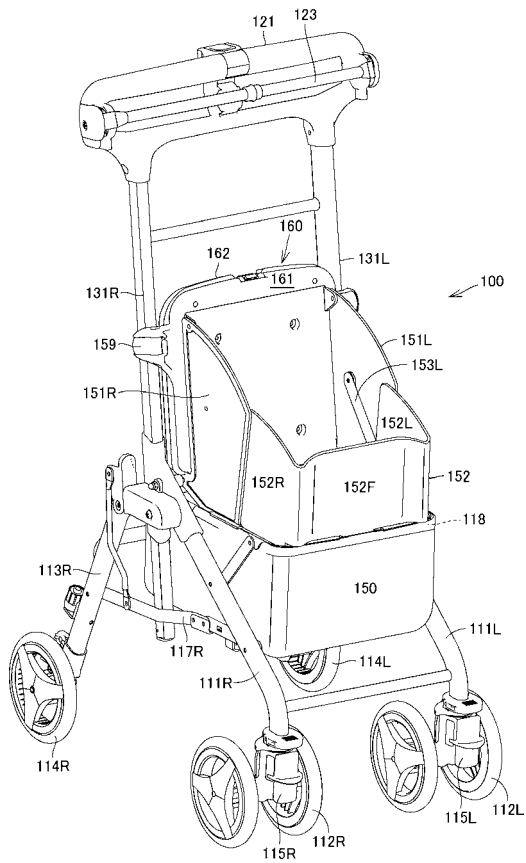
【図 1】



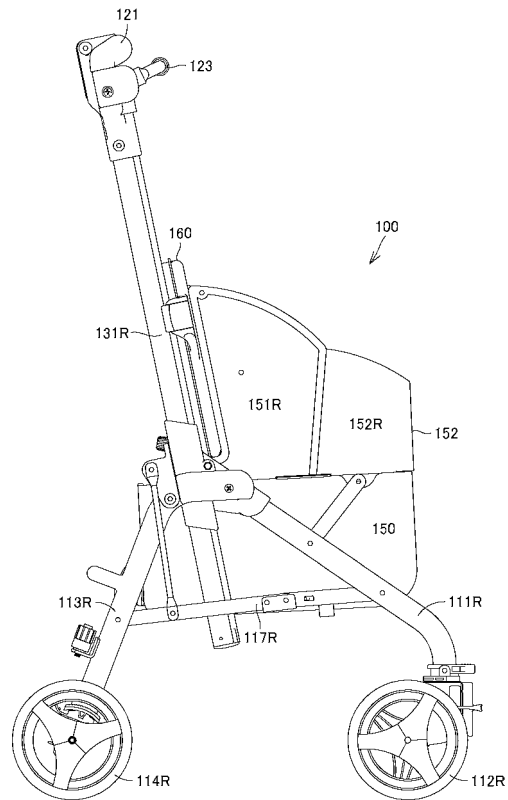
【図 2】



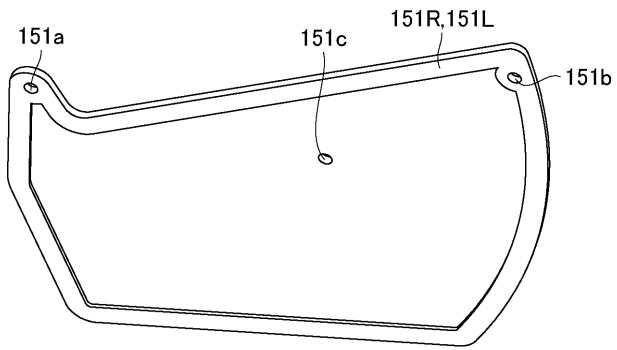
【図 3】



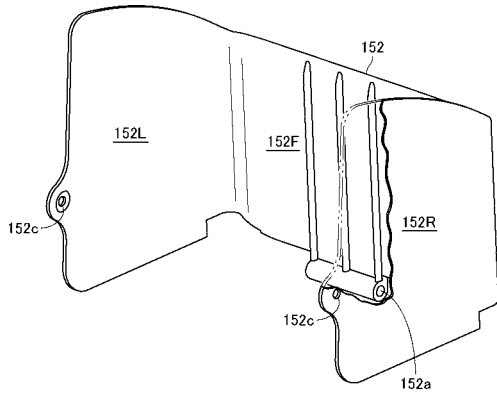
【図 4】



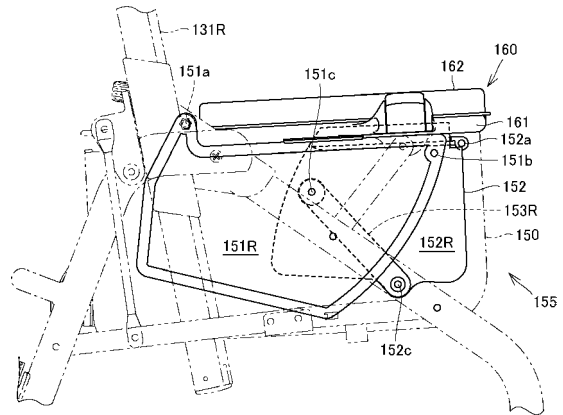
【図 5】



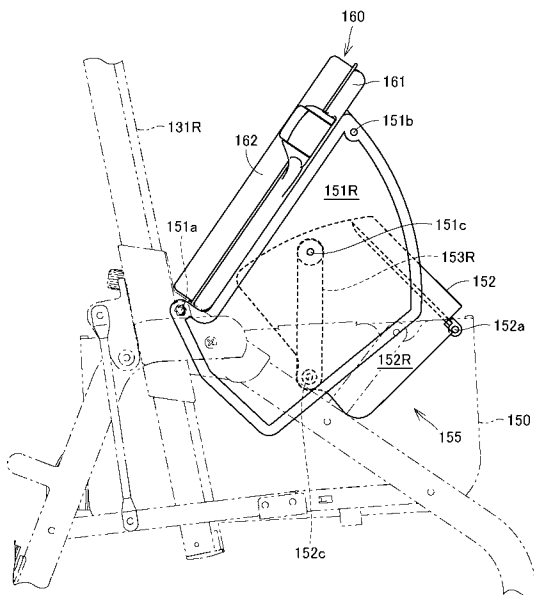
【図 6】



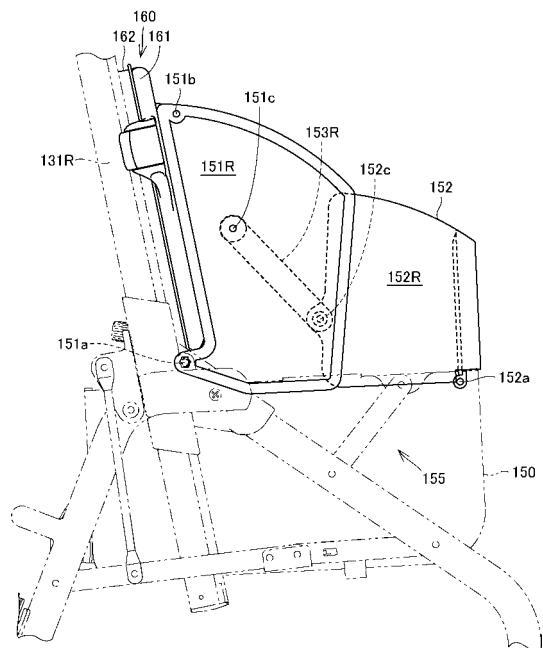
【図 7】



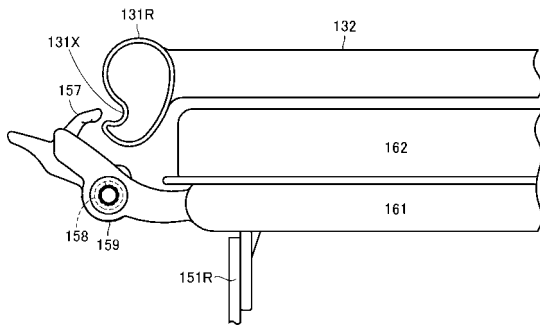
【図 8】



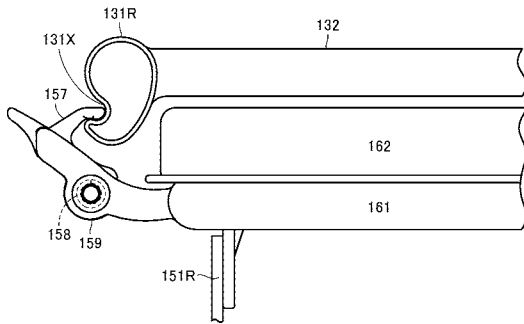
【図 9】



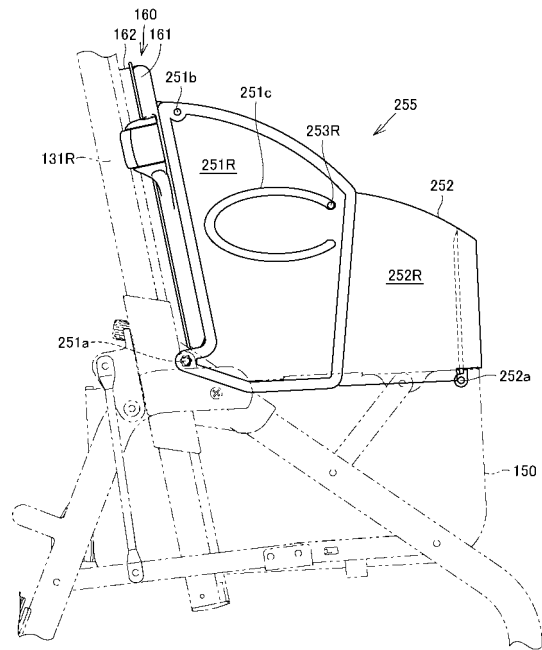
【図 10】



【図 11】



【図 12】



フロントページの続き

(72)発明者 峯垣 淳平

大阪府堺市堺区海山町 3 丁 1 5 0 番地 1 株式会社幸和製作所内

Fターム(参考) 3D050 AA02 AA03 BB04 DD01 DD03 EE08 EE15 KK15